

リハセンだより



第60号

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター講演会

平成28年11月6日(日)、秋田駅前の秋田ビューホテルにて「リハセン講演会」を開催し、122名の方にご参加いただきました。

講演では、小畑信彦センター長から抗精神病薬使用やその副作用等について講演がありました。また、能登霊威言語聴覚士から難聴が脳に与える影響について、船木精神保健福祉士から秋田県認知症疾患医療センターの紹介、高橋医療相談連携室長から高次脳機能障害やその相談・支援について、それぞれ講演がありました。イベントブースでは、スタッフによる認知症や栄養などに関する相談コーナーや、血管年齢測定、骨密度測定、聴力検査、握力、上肢機能検査体験、ロボットスーツHALの展示・説明などを行い、多くの皆さんにリハセンの業務を紹介することができました。このようなイベントを通じ、県民の方々に少しでも当センターの認識を高めていただくとともに、多くの医療機関や介護事業所等ともネットワークを作り、当センターを活用いただけるよう努めていきたいと思っております。



「リハセン講演会」が盛況に終了しました！

講演1 抗精神病薬の光と影～高齢のご両親を持つ方達のために～

センター長 小畑 信彦

認知症を背景とする、もの盗られ妄想に対処するためには心理的な理解、配慮と薬物の上手な利用の両方が必要です。

もの盗られ妄想を理解するためには「邪推」と考えると分かりやすいでしょう。例：大事な物品（通帳など）を用心のために隠した事実そのものを忘れてしまい、盗られたと邪推する。その背景には認知症高齢者の独特の心境－混乱、不安、悲観があると思います。

理屈で説得するのではなく、本人が安心するような話し方、お世話の仕方が大事になると思います。議論せずに、必要な時には援助する旨、繰り返し強調すると、本人も安心してくれる事が多いと思います。また、お孫さんの話など本人が喜ぶ話題をさりげなく持ち出せば喜んでくれるようです。色々矛盾があっても、「本人なりに満足した生活が出来ればそれでよい」、そのような考え方が大事だと思います。話し方はあくまでもソフトに穏やかにしましょう。

心理的な働きかけでは限界がある事が多いと思います。その時には抗精神病薬の投与などを医師に相談しましょう。妄想は家族だけでなく、本人にとっても苦しいものです。手のふるえや筋のこわばりの副作用が出やすいので、気がついたら必ず医師に報告しましょう。



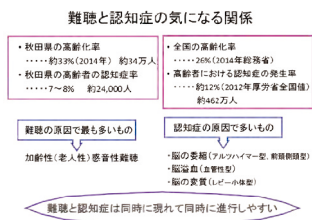
実技を交えた様子

講演2 難聴が脳に与える影響～補聴器は役立てられるか～

機能訓練部 言語聴覚療法室 言語聴覚士 能登靈威



難聴は自分では自覚されにくい（或いはしたくない）傾向にあります。実際に聴力検査を行うと男性は75歳までに半数が、また女性も80歳までに7割近くの方が難聴を呈しています。難聴であることの問題点は単に聴こえにくい不便さだけではなく、音や声が聞こえることで働く「感情」「記憶」「言語機能」といった脳の機能を休ませてしまうことが重大です。さらに今、対応が喫緊の課題となっている認知症との関連では、秋田県は全国トップの高齢化率であり、難聴と認知症を有する人の数も増えることが懸念されています。難聴は認知症を促進する要因の一つとして厚生労働省が掲げており、実際に難聴を放っておくことは認知症の進行に至っているという研究発表が出され始めています。聴こえにくいと感じたとき、あるいは周囲の人から指摘されたときは、耳鼻科で耳の聞こえを測ってみましょう。もし難聴があっても悲観することはありません。現代の高精度に進歩した補聴器は聴こえの機能をリハビリし、生活では人との会話が分かるようになり、ひいては認知症の始まり・進行を抑制することが期待されています。「補聴器は高価なわりに聴こえない」という考えの方もおられますが、補聴器は「聴こえやすい音や声を作る機械」です。きちんと聴力検査をし、耳に合わせた調整をした補聴器を使って、耳や脳の神経をもっと鍛えていきましょう。



講演 3

秋田県認知症疾患医療センターの紹介

秋田県認知症疾患医療センター 精神保健福祉士 船木 聡



相談・受診の流れ



認知症疾患医療センター（以下認知症センター）設置の背景としては、認知症になっても医療機関を受診するケースが少ない、地域で支援する体制が不十分、疾患に対する理解の欠如、専門医療機関が少ないなど、また、簡単な認知症スクリーニング検査を受けても認知症ではないと診断されたり、発見が遅れた事例も少なくありません。これらの事情を背景に厚生労働省では平成 20 年から全国に認知症センターを設置することを決め、平成 29 年度末までに 500 カ所の設置を目標としています（H28 年 2 月末時点で 336 カ所設置）。そのような中で秋田県立リハビリテーション・精神医療センターでは、秋田県から指定を受け、平成 25 年 10 月（県内初）より認知症センター事業を行っています。

主な業務内容としては、①専門医療相談、②鑑別診断と対応、③身体合併症・行動心理症状への対応、④関係機関との連携・協議、⑤研修会の開催・情報発信の 5 点となります。相談件数は年間約 1,000 件で主に電話での相談が多い状況です。相談元は本人・家族（主に家族）からの相談が多く、次いで医療機関、介護機関となります。相談内容としては、受診・入院についての相談が多く、在宅介護や施設での対応が困難なため相談に至るケースもみられます。そのほか、もの忘れが気になって早めに受診したい又は受診したほうが良いか？認知症の治療中であるが認知症センターで再検査してもらいたい、他の医療機関で検査をして問題ないと言われるも心配なため再検査してもらいたいなどの相談も多くなっています。認知症センターが開設されたことで早期発見・早期治療にも結びついていることから、受診したほうが良いか、どこへ相談したら良いかなど分からないことがありましたら、気軽にご相談下さい。

（秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 医療相談連携室内）
相談受付時間：平日 9：00～16：00
電話：018-892-3751 FAX 018-892-3816

講演 4

秋田県高次脳機能障害相談・支援センターの紹介

診療支援部 医療相談連携室 室長 高橋敏弘

高次脳機能障害をご存知でしょうか？

高次脳機能障害とは脳卒中や交通事故などによる頭のケガや、心肺停止による低酸素脳症、脳の病気の後遺症としてみられる後天性の障害です。主な症状として「記憶障害」「遂行機能障害」「注意障害」「社会的行動障害」等があり、本人に障害の自覚が乏しく、周囲の人も障害とは気づきにくい「目に見えない障害」と言われています。高次脳機能障害は診断を受けることによって、症状の程度により「精神保健福祉手帳」や「障害年金」等の対象になります。当センターは秋田県の委託を受け高次脳機能障害の支援拠点機関として様々な相談を受け付けています。

高次脳機能障害に関するご相談は秋田県高次脳機能障害相談・支援センターまでお願いします。

（秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 医療相談連携室内）

医学的評価、リハビリ、専門的な相談支援等

相談受付時間：平日 9：00～16：00

電話：018-892-3751 FAX 018-892-3816

もしかして高次脳機能障害かも？と思ったらご相談ください。



「リハセン講演会」イベントブース



握力、上肢機能検査体験



聴力測定



血管年齢測定



骨密度測定



お薬相談



栄養相談



認知症スクリーニング検査体験



理学療法展示コーナー



作業療法展示コーナー



放射線科展示コーナー



社会資源のご紹介



臨床心理展示コーナー

参加者の声

- ◆体験コーナーでは、とても親切にご指導いただきました。
- ◆困難なケースへの取り組み方や、実技や事例を交えた具体的な講演で、大変分かりやすかった。
- ◆講演、資料ともに分かりやすかった。
- ◆今回の講演を聴き、リハセンが近い存在に感じて、とても心強かった。
- ◆脳障害や脳梗塞のリハビリや、アルツハイマーなどの講演も聴いてみたい。

たくさんの方々にご来場いただき、ありがとうございました。

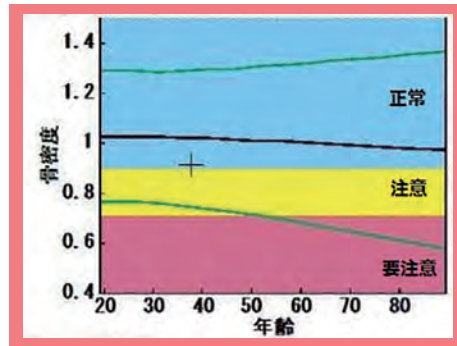
放射線科

X線骨密度測定装置の更新について

当センターではH28年11月より最新のX線骨密度測定装置を導入いたしました。

骨粗しょう症は、骨の強度が低くなって、軽い衝撃でも骨折を起こしやすくなる病気です。

骨粗しょう症自体による症状はほとんどありませんが、骨粗しょう症の人が骨折を起こすと、背骨の変形や腰痛が起こったり、寝たきりの原因になることもあります。骨折やそれに伴うさまざまな障害を防ぐために、骨粗しょう症は早く見つけ、早く治療を始めることがとても大切な病気です。また骨粗しょう症の診断にはX線を利用した検査が最も信頼性が高いと言われています。当院でも腰椎、大腿骨の2か所を測定しております。仰向けに10分ほど寝ているだけで検査が完了しますので、患者さんへの負担はほとんどありません。



検査科

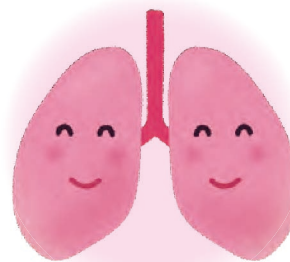
呼吸機能検査について

呼吸機能検査は、スパイロメーターという検査機器を使って行う検査です。多くの検査項目がありますが、当院で多い2つの項目、肺活量と努力性肺活量・1秒率を紹介します。検査は鼻をノーズクリップで止め、スパイロメーターに接続したマウスピースを口にくわえて行います。

肺活量は静かな呼吸を数回繰り返した後、吐き切れなくなるまで息を吐き、次に吸えなくなるまで息を吸い、さらに吐き切れなくなるまで息を吐きます。

肺活量と努力性肺活量・1秒率は静かな呼吸を2～3回繰り返したのち、吸えなくなるまで息を吸い、一気に強く、速く息を全部吐きます。

基準値は年齢、性別、身長などにより算出されます。基準値の肺活量は80%、1秒率は70%を満たさないものをそれぞれ拘束性換気障害、閉塞性換気障害と呼びます。拘束性は肺繊維症・肺結核、閉塞性は気管支喘息・気管支拡張症が代表的疾患です。



第 1 回精神科ケアシリーズ「講演会」

リハセンでは、認知症及びリハビリのケアシリーズを毎年開催していますが、新たに精神科ケアシリーズを平成 28 年 9 月 26 日（月）に当センター講堂にて開催しました。精神科ケアシリーズでは当センターの取組み紹介と問題点の共有を図ることで、地域支援事業者との連携を強化し、精神科入院患者の地域移行・定着促進を図ることを目的に開催しました。

今回は、地域支援事業者が接することの多い統合失調症、双極性障害（躁うつ病）、人格障害などの精神障害について精神科医師から、また各疾患の対応のポイントや受診相談について精神科認定看護師、精神保健福祉士から講演がありました。当日は 60 名の方の参加があり、質疑応答では、「受診中断者への対応に苦慮している」「精神障害者支援の経験が浅く、接し方がわからない」などの意見もありました。



コラム

リハセンの 1 階フロア周辺がコーヒーの香ばしい香りに包まれる日があります。ショートケアメンバーが活動の一環として行っている『喫茶カモミール』です。不定期ですが、月に 2 回午前 10 時頃から 11 時半頃までの間、1 階の休息コーナーとカウンターにおいて『ホットコーヒー』『アイスコーヒー』『冷たいウーロン茶』を無料でお出ししています。この活動を通して、メンバー同士のチームワークやコミュニケーション、接客・接遇の学習をする機会としています。

ショートケアでは、翌月の『喫茶カモミール』開店日が決まるとお知らせのポスター作りが始まります。パソコン練習メンバーは文字の入力、各々のセンスの塗り絵で仕上げます。センター内の掲示も含め、準備作業から当日参加メンバー全員の協力体制で成り立っている活動です。先日ご家族の受診に付き添って来られた女性の方が立ち寄ってくださり、「平成 21 年にリハセンの援護寮で仕事させてもらってました。カモミールはずっと続いてたんですね。」と当時の様子などを懐かしそうに楽しくお話をいただきました。活動終了後はメンバーから「今日も無事に終わってよかった！」と疲労困憊と安堵の第一声が上げられます。しかしミーティングでの振り返りでは、来客者から「おいしかった。」「気持ちよく飲めた。」「笑顔でいいですね。」「次いつ？また来るね。」などの喜びや励ましの言葉を頂いたメンバーは、「やってよかったね。」との嬉しい感想と同時に、「もっと良いカモミールにするためには？」と前向きな意見や提案が自然に出てくるようになってきており、とても貴重な社会学習の場になっています。

カモミールの花は白く可憐な印象ですが、花言葉は「逆境に耐える」「逆境で生まれる力」です。カモミールが地面を這うように生え、踏まれるほどに丈夫に育ってゆくことに由来しているのだそうです。また、近くに生えている植物を健康にする働きもあるといわれます。

今後もショートケアメンバーは、センター内の皆様の『ほっと一息できる時間』のお手伝いができますよう、可憐に根強く活動していきますので、ぜひ香ばしい香りに乗ってぜひお立ち寄りください。

精神科ショートケア担当看護師 川上明美

＊当センターの受診予約・入院申込みについて

当センターのリハビリテーション科、精神科、放射線科、もの忘れ外来は全て予約制になっております。現在受診している医療機関がある場合は紹介状をご準備いただき診療予約をしたうえで来院して下さい。

また、当センターではFAXによる入院予約申込み（リハビリテーション科のみ）も受付けております。初めてFAXによる入院予約を希望される場合は「医療相談連携室」までご相談下さい。

（外来受診・FAX入院予約に関する申し込み・問い合わせ先）

TEL 018-892-3751（代表）医療相談連携室まで

FAX 018-892-3816（医療相談連携室）

＊リハセン脳ドック

脳ドックとは、MRI等の検査によって脳疾患の有無をチェックする検診です。

健診とその検査結果の説明は同日中に担当医から行われます。

検査日：毎週金曜日（予約制）

午前8時30分～午後0時30分

脳ドックのご予約、費用などのお問い合わせは

TEL 018-892-3751（代表）医事課まで

FAX 018-892-3759（医事課）

検査内容

血圧測定、体組成形（身長、体重、BMI）、腹囲測定、尿検査、血液検査、胸部X線撮影、頭部MRI、心電図、血圧脈派、頸部エコー



外来診療担当表

外来診療受付時間

午前 8:30～11:00 / 午後 12:30～2:00

●リハビリテーション科外来診療担当表

	月	火	水	木	金
新患	-	-	-	横山 絵里子 荒巻 晋治 宮田 美生	-
再来	荒巻 晋治	佐山 一郎 横山 絵里子	横山 絵里子	境 梨沙	宮田 美生

●精神科外来診療担当表

	月	火	水	木	金
新患	向井 長弘 鈴木 りほ	須田 秀可 小林 佑美	小畑 信彦	成田 恵理子	倉田 晋
再来1	倉田 晋	小畑 信彦	兼子 義彦	倉田 晋	小畑 信彦
再来2	須田 秀可	佐藤 隆郎	須田 秀可	向井 長弘	成田 恵理子
再来3	成田 恵理子	向井 長弘	鈴木 りほ	小林 佑美	成田 恵理子
再来4	-	-	-	-	鈴木 りほ
午後新患	兼子 義彦	-	-	-	向井 長弘

●もの忘れ外来・高次脳機能障害外来診療担当表

	月	火	水	木	金
新患	佐藤 隆郎 (精神科)	佐藤 純一 (リハ科)	佐藤 隆郎 (精神科)	下村 辰雄 (リハ科)	兼子 義彦 (精神科)
再来	-	下村 辰雄 (リハ科)	下村 辰雄 (リハ科)	-	
		佐藤 隆郎 (精神科)	佐藤 隆郎 (精神科)		
高次脳機能障害外来	-	佐藤 純一 (リハ科)	-	-	下村 辰雄



秋田県立リハビリテーション ・精神医療センター



●電車とバスでリハセンに来るには

平成28年4月現在

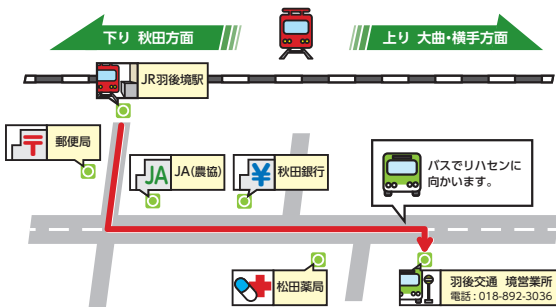


1. JR奥羽本線、羽後境駅で下車。
2. 徒歩で羽後交通境営業所に向かいます。(約3分)
3. 羽後交通境営業所から淀川線でリハセン経由「福部羅行き」に乗ります。
4. 羽後交通境営業所からリハセンまで約10分。リハセン玄関前のバス停で下車。

バス時刻表 (平成28年4月1日現在)

淀川線 (境～協和小学校～リハビリセンター～中逢田～下川口～福部羅)			
境営業所	リハビリセンター	リハビリセンター	境営業所
発	着	発	着
8:10	8:20	—	7:52
▲ 9:10	▲ 9:20	7:38	7:54
10:20	10:30	9:18	9:28
▲ 11:14	▲ 11:30	▲ 9:25	▲ 9:35
12:20	12:36	11:28	11:38
▲ 14:15	▲ 14:31	▲ 12:28	▲ 12:44
15:15	15:31	13:36	13:46
▲ 16:15	▲ 16:31	▲ 15:36	▲ 15:46
17:20	17:36	16:36	16:46
▲ 18:34	—	▲ 17:36	▲ 17:46
		18:36	18:46

▲印は土・日・祝連休



所要時間と料金

JR上り	JR下り	バス
秋田駅～羽後境駅 約25分 運賃500円	大曲駅～羽後境駅 約24分 運賃410円	境営業所～リハセン前 約10分 運賃320円

タクシーをご利用の場合

小山ハイヤー 018-892-3049 など

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター診療情報

診療科目: リハビリテーション科、精神科、放射線科
診療日: 月～金(祝日・12月29日から1月3日を除く)
受付時間: 午前8:30から11:00まで

病床数: 一般病床:50床、療養病床:50床、精神病床:200床

- センターの特徴: 365日毎日リハビリ訓練
脳ドック・物忘れ外来・精神科ショートケア
画像診断(CT・MRI・SPECT)
日本医療機能評価機構認定

相談のご案内

リハセンへの受診や入院に関することについて、
電話やFAXでの相談に応じております。
お気軽にどうぞ。

発行
秋田県立リハビリテーション・
精神医療センター
〒019-2492
秋田県大仙市協和上淀川字五百刈田 352
TEL:018-892-3751(代表)
FAX:018-892-3757(総務管理課)
発行責任者 小畑 信彦